

## 当院における予定入院前患者の新型コロナウイルス検査の必要性について

◎竹中 ゆり子<sup>1)</sup>、河村 美里<sup>1)</sup>、大草 繁美<sup>1)</sup>、大橋 有希子<sup>1)</sup>、畑中 重克<sup>1)</sup>、野中 伸弘<sup>1)</sup>  
社会医療法人生長会府中病院<sup>1)</sup>

【目的】新型コロナウイルスの感染拡大時において、医療機関では無症状者への対応が留意事項の一つであった。病院での水際対策として、当院では感染症状のない予定入院前患者（以下無症状者とする）に対し、入院2日前に新型コロナウイルス検査（LAMP法）を実施した。また、地域医療連携として新型コロナウイルス検査を実施できない医療機関を対象にした検査センターを開設し、そこに依頼があった患者（以下有症状者とする）に対し、新型コロナウイルス検査（LAMP法）を実施した。さらに、当院では検体採取を臨床検査技師が担っている。今後流行株の特徴や人員面を考慮した上で、入院前検査実施の有無を判断する必要がある。今回、予定入院前患者に対する新型コロナウイルス検査実施の必要性の有無を判断する事を目的とし、無症状者と有症状者の各陽性率で比較を行った。

【対象・方法】2020年12月11日～2021年6月30日の期間、無症状者及び有症状者を対象として、両者の新型コロナウイルス検査の陽性率を算出し比較検討した。さらに、無症状者については、入院後のカルテから全ての

新型コロナウイルス検査結果を調べた。

【結果】期間中の無症状者は1116人、有症状者は450人であった。無症状者からは陽性者は出現せず、陽性率は0%であった。さらに、その後入院中に新型コロナウイルス感染症を発症した患者もいなかった。一方で、有症状者からは34名陽性となり陽性率は7.6%（小数第二位四捨五入）であった。

【考察】無症状者の対象者は、2日後の入院のため不要不急の外出を控えるなど、健常者より一層感染対策に注意されていると推察する。したがって、予定入院前患者については一律での新型コロナウイルス検査は必須検査ではないと考えられる。ただし、患者背景によっては検査の必要性を否定する事はできない。本研究結果は一地域における一病院での報告であり、入院前検査実施の有無を判断するには、今後この分野でのさらなる研究が必要と考えられる。  
連絡先：0725-43-1234（内線：1816）